

本が伸ばす競技力

パネル討論



討論するパネリストの各氏
(10月3日、東京・大手町)

司会(日本経済新聞編集委員の北川和徳) 今回のテーマは「スポーツが開くことばの世界」です。まずスポーツと言葉のかかりについての考えをお聞きしたいと思います。
為末氏 スポーツ選手は読書をする人が多い。ボクシ

堂場瞬一氏 スポーツを書くのって実は面倒くさい。競技者やその競技のファンだと、説明しなくてもわかること、知らないこともわかること、打球が左中間に飛んだ。

想像力や行間読む力育む

堂場氏 仮に室伏さんがコートだどうなんだろう。為末氏 選手は相当迷いますよ。仙一人みたいな言葉の使い方をする人だという感じがしました。

今井氏 仙一人みたいな言葉に触発されて、さらに深く考えるような選手が相手だったらすごくいいですね。相手を誰にでも仙一人のような言葉を使っているのはいいですね。

堂場氏 読書、特に小説を読むというのは他人の人生を生きていることじゃないでしょうか。小野田元少尉の話がありました。あんな経験ができる人はまずいないわけですね。それを読んで経験できる。経験や想像力育むのが読書だと思います。

スポーツと読書の関係

為末氏 選手には読書家が多い

司会(日本経済新聞編集委員の北川和徳) 今回のテーマは「スポーツが開くことばの世界」です。まずスポーツと言葉のかかりについての考えをお聞きしたいと思います。
為末氏 スポーツ選手は読書をする人が多い。ボクシ

堂場瞬一氏 スポーツを書くのって実は面倒くさい。競技者やその競技のファンだと、説明しなくてもわかること、知らないこともわかること、打球が左中間に飛んだ。

想像力や行間読む力育む

堂場氏 仮に室伏さんがコートだどうなんだろう。為末氏 選手は相当迷いますよ。仙一人みたいな言葉の使い方をする人だという感じがしました。

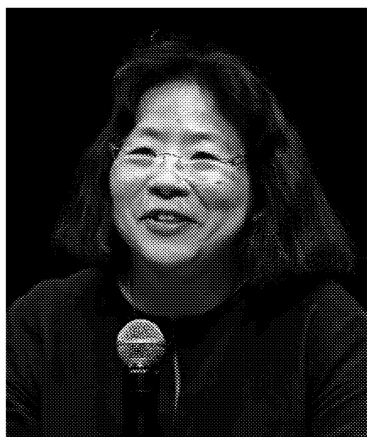
今井氏 仙一人みたいな言葉に触発されて、さらに深く考えるような選手が相手だったらすごくいいですね。相手を誰にでも仙一人のような言葉を使っているのはいいですね。

堂場氏 読書、特に小説を読むというのは他人の人生を生きていることじゃないでしょうか。小野田元少尉の話がありました。あんな経験ができる人はまずいないわけですね。それを読んで経験できる。経験や想像力育むのが読書だと思います。

相手の心わかってこそ

慶応義塾大学教授

今井 むつみ氏



意思疎通

司会 選手村ではアスリートの皆さんはどんな話をされますか。
為末氏 北京オリンピックの選手村で(男子400リレー銀メダリストの)朝原宣治さんが「覚えてるよな」と言ったんです。文脈でたどると「いろいろ練習してきたのに失敗した、以前のことをみんな覚えてるよな」だと思ってるんですが、長い間に一緒にいた人たちにしかわからないような言葉が出てくるときがあります。

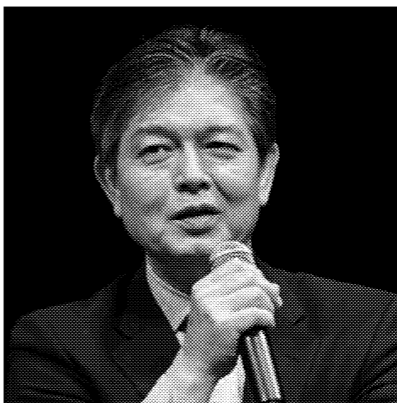
今井氏 「ピアンニア」という映画があります。ピアニストと調律師、それぞれの道で超一流のふたりが、今までの超一流のふたりが出すときに何が起るかというところを、非常に端的に示してくれているドキュメンタリー映画です。私の専門の観点からしても感動しました。

為末氏 マラソン指導者の小出義雄さんは、(シドニー五輪女子マラソン金メダリストの)高橋尚子さんや(バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリストの)有森裕子さんなど、選手によって性格が変わると言われていました。良いコーチにはスタイルが決まっている以外に、選手を見ながら自分を変えるパターンもあるのではないかと思います。

司会 最後になぜ読書をするべきなのかという話をおうかがいします。
今井氏 読書は映像と違って埋める行間がたくさんあります。今まで実際に経験できなかった世界に心を羽ばたかせられる。それは人間の特権だと思つし、特に子どもにとっては大きな糧になると思います。子どもの学力の多くは読書量で決まることは学術的な調査で明らかになっていいます。

堂場瞬一氏 読書は映像と違って埋める行間がたくさんあります。今まで実際に経験できなかった世界に心を羽ばたかせられる。それは人間の特権だと思つし、特に子どもにとっては大きな糧になると思います。子どもの学力の多くは読書量で決まることは学術的な調査で明らかになっていいます。

作家 堂場 瞬一氏



どうば・しゅんいち 1963年茨城県生まれ。新聞記者を経て作家に。2000年「8年」で小説する新人賞を受賞してデビュー。「刑事・鳴沢」シリーズ、「チーム」など警察・スポーツ小説を中心に執筆。高校時代はラグビー部の主将。

今井氏 人が客観的に世界を見るのは、ほぼ不可能だと思います。完全な客観性はないが、自分の見ている世界が人と違っているかもしれない、ずれているかもしれないという感覚を自分で持ち、俯瞰的に見ることはとても大事です。

読書の意義

文字・活字文化推進機構 活字離れに歯止めをかけるため、文化人や経済界が中心となって2007年に設立した。「文字・活字文化振興法」の趣旨を実現する組織として、日本語を深く理解し、表現力や思考力、情報分析力を持った人材の育成を目指している。小学校での朝の読書や読み聞かせ、調べ学習といった学校の教育活動を支援するほか、地域の公共図書館に専門司書を配置するなど幅広く活動。成人向けにも、言葉の力を養うセミナーや研修に講師を派遣するなどの取り組みを続けている。

自分と違う人間 知るきっかけに

くわくした感じは覚えている。知識が豊かになることが一番ではなくて、やはり過程が大事なのかな。結果として一人ではできないような物の見方ができて世界が広がる。そこが大きいと思います。

堂場氏 僕は共感できない人が出てくる本が好きです。それは自分が知らないものを教えてくれるから。嫌なやつだけどういふ見方もあるんだとか、何でもかんでも行動の心理を読むとか、「非共感」の部分を経験できるのが読書じゃないかと思つています。小説でもノンフィクションでも指し示しているところを、自分と違う人間がいてどういふことを知るためだけに本を読む価値はあると考えています。